

## 令和2年度 播磨町水道事業報告書

### 1 概況

#### (1) 総括事項

本年度の給水業務状況は、給水装置数が前年比で240栓（1.5%）増の16,453栓、給水人口は204人（0.6%）増の34,709人となりました。

なお、年間有収水量は、26,093m<sup>3</sup>（0.7%）増の3,582,615m<sup>3</sup>となりました。これはコロナ禍における巣ごもりによる一般家庭での水需要の増加が要因として考えられますが、一過性のものとも考えられるため、今後の水需要の動向については注視していく必要があります。

いずれにしても今後の水需要は、給水人口の減少と節水意識の向上に伴い、減少傾向にあると思われるため、水道事業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

管路布設工事については、大中地区（第2工区）基幹管路布設替工事のほか、町道古宮土山線配水管更新工事（3工区）、宮西地区配水管布設替工事（2工区）、古宮地区（第3工区）配水管布設替工事、水田川改修に伴う先行配水管布設工事を行いました。

浄水場関連施設では取水井浚渫清掃工事（9号・34号取水井）、排水返送ポンプ更新工事等を行いました。

経営状況（税抜）については、総収益が623,831,985円に対して、総費用が480,019,032円で、当年度純利益143,812,953円を計上しました。

水道事業収益の主なものは、水道料金468,735,746円（75.1%）、長期前受金戻入〔※注〕82,247,834円（13.2%）、新型コロナウイルス感染症に伴う経済対策による水道基本料金減免額を補填する一般会計からの繰入金32,816,162円（5.3%）で、収益全体の93.6%を占めています。

一方、水道事業費用の主なものは、減価償却費200,391,857円（41.7%）、支払利息及び企業債取扱諸費18,384,586円（3.8%）、職員給与費45,480,099円（9.5%）、県水受水費40,306,564円（8.4%）、動力費35,884,349円（7.5%）で費用全体の70.9%を占めています。

以上の結果、供給単価は130.84円、給水原価は107.87円になりました。

資本的収支（税込）については、総収入額が200,164,361円に対して、支出は建設改良費が245,556,705円、企業債償還金120,068,115円で総支出額365,624,820円となりました。

なお、不足する165,460,459円については、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額13,282,396円、減債積立金71,461,686円、過年度分損益勘定留保資金80,716,377円で補てんしました。

以上が令和2年度における経営並びに事業実施の概要であります。今後におきましても住民に安全で低廉な水を安定的に供給するため、水源の確保と効率的な事業運営に取り組み、公共の福祉の増進に努めます。

#### 〔※注〕

地方公営企業会計制度の見直しにより、平成26年度から償却資産の取得又は改良に伴い交付される補助金等については、「長期前受金」として負債（繰延収益）に計上した上で、減価償却見合い分を「長期前受金戻入」として順次収益化する。（地方公営企業法施行令第26条、地方公営企業法施行規則第21条）